

# 地震観測施設一覧\*<sup>0</sup>（2010年3月末現在）

地震調査研究推進本部調べ

項目 担当機関	高感度地震計		広帯域地震計		強震計		地殻変動				海底地殻変動 (海底基準局)	地下水	地球 電磁気	重力	検潮 ・ 津波	
	陸	海底* <sup>1</sup>	TYPE1* <sup>2</sup>	TYPE2* <sup>3</sup>	地上	地下	GPS	SLR	VLBI	歪計等* <sup>4</sup>						
国立大学法人	231	6(2)	12* <sup>5</sup>	38* <sup>5</sup>	132	15	75				86		12	33	2	4
防災科学技術研究所	782	6(1)	19	54	1735	691					49					3
海洋研究開発機構		6(3)		1												5
国土交通省					1269	97										72
国土地理院							1350		4		5			16	2	27
気象庁	195* <sup>6</sup>	13(3)			584						36			6		76* <sup>7</sup>
海上保安庁海洋情報部							30	1			16					20
産業技術総合研究所	27			1	1	2	11				33		49			
合計	1235	31(9)	31	94	3721* <sup>8</sup>	805	1466	1	4		209	16	61	55	4	207* <sup>7</sup>

(\*0) 臨時観測点は対象外。

(\*1) 括弧内はケーブルの本数。

(\*2) 小地震から地球自由振動まで解析可能な周波数帯域をカバーする広帯域地震計。(例: STS1、CMG1T)

(\*3) 微小地震から津波地震のうち比較的卓越周期の短いものまで解析可能な周波数帯域をカバーする広帯域地震計。(例: STS2、CMG3T)

(\*4) 歪計、体積歪計、3成分歪計、傾斜計、伸縮計等を示す。

(\*5) 国立大学の広帯域地震計は、高感度地震計に併設されている、または高感度地震計と兼ねて運用しているため、高感度地震計の内数となる。

(\*6) 気象庁の高感度地震計の中には、TYPE2の広帯域地震計の性能を有する地点が20点ある。

(\*7) 他機関(地方自治体等)依存観測点として1点、他機関観測施設利用観測点として2点を含む。

(\*8) この他に、地方公共団体の震度計約2800地点等がある。